

The Behaviormetric Society

2017



日本行動計量学会

第45回大会 プログラム冊子

Program of the 45th Annual Meeting of the Behaviormetric Society

2017年8月29日(火)～9月1日(金)



日本行動計量学会

第 45 回大会プログラム

このたび 8 月 29 日から 9 月 1 日までの 4 日間、日本行動計量学会の第 45 回大会を静岡県立大学で開催させていただくことになりました。

本学の紹介を簡単にさせていただきます。静岡県立大学は、1987 年に前身となる県立 3 大学（静岡薬科大学、静岡女子大学、静岡女子短期大学）を改組・統合して総合大学として生まれ、今年 2017 年に創立 30 周年を迎えます。その記念の年に日本行動計量学会の大会を開催できることを喜ばしく思います。本学は、薬学部、食品栄養科学部、国際関係学部、経営情報学部、看護学部の 5 学部からなる、理系・文系を併せ持った総合大学です。3 年前までは全学部が谷田キャンパス（現草薙キャンパス）にありましたが、その後、薬学部の 6 年制化と、学生定員の増加に伴い、看護学部を別キャンパスに移しました。本学のほとんどの学生は静岡県内からの修学で、在学生数は 3000 名前後の中規模大学です。立地としては、周辺に県立の美術館、図書館がある文京地区で、眺めの良い高台に位置しています。天気がよければ富士山もご覧になれます。草薙は日本神話に出てくる草薙の剣にちなんでおり、少し離れたところには、プロ野球の試合も開催される草薙球場があります。最寄りの JR 駅は東海道本線草薙（くさなぎ）駅で、JR 静岡駅から約 7 分、降車後徒歩約 15 分です。本数は少ないですが、バスの便もあります。詳しくは本学のウェブサイトをご覧ください。

さて、今回の大会も特別講演「柳井レクチャー」として大学入試センター名誉教授の岩坪秀一先生による「水野欽司と行動計量学－林知己夫との絆を中心に－」を行います。岩坪先生は柳井先生と共著で講談社ブルーバックスのベストセラー「複雑さに挑む科学」を執筆されましたことは、皆様ご存知のことと思います。また今回は、来年が、本学会の初代理事長の林知己夫先生の生誕 100 周年にあたることから、「行動計量学会と林知己夫 一生誕百年を記念して」と題したシンポジウムと、「林知己夫の業績とその後の発展」と題した特別セッションを 2 題予定しています。さらに、一昨年より始まりました、深い議論が可能になる「ラウンドテーブル・ディスカッション」と「ポスターセッション」も開催いたします。

本学会の大会としましては、静岡での開催は初めてでございます。世界遺産にも登録されました霊峰富士の膝元で開催されます本大会で、皆さまの研究の幅が広がり、さらに刺激的な研究交流の場となりますことを祈念しております。

第 45 回大会実行委員長 西川 浩昭
(静岡県立大学看護学部)

大会の概要

1. 基本情報

- (1) 期 間: 2017 年 8 月 29 日(火)～2017 年 9 月 1 日(金)
29 日は、チュートリアルセミナー
- (2) 場 所: 静岡県立大学草薙キャンパス(旧: 谷田キャンパス)
- (3) URL: <http://bsj.wdc-jp.com/2017/>
- (4) 問い合わせ先:
大会ヘルプデスク(bsj-desk@bunken.co.jp)
大会実行委員会(bsj2017@u-shizuoka-ken.ac.jp)
- (5) 大会の構成:
8 月 29 日(火) 12:00～13:00 日本行動計量学会大会初参加者ガイダンス
13:30～16:30(受付開始 13:00) チュートリアルセミナー
8 月 30 日(水) 10:00～17:20(受付開始 9:30) 特別セッション、一般セッション、ラウンド
テーブル・ディスカッション
8 月 31 日(木) 9:30～11:30(受付開始 9:00) 特別セッション、一般セッション、ラウンドテ
ーブル・ディスカッション
12:30～13:30 ポスター発表
13:40～15:10 大会シンポジウム
15:20～16:20 柳井レクチャー
16:30～17:30 総会
18:30～20:30 懇親会
9 月 1 日(金) 9:30～14:30(受付開始 9:00) 特別セッション、一般セッション

2. 大会までのスケジュール

- | | |
|-------------------------------|--|
| 2017 年 1 月 23 日(月) | Web サイト公開 |
| 2017 年 3 月 1 日(水) | 特別セッションの企画募集開始 |
| 2017 年 4 月 3 日(月) | 大会参加事前申込、一般発表申込、抄録原稿受付
チュートリアルセミナー参加申込、各種開始 |
| 2017 年 5 月 11 日(木) | 特別セッションの企画募集締め切り |
| 2017 年 6 月 1 日(木) | 一般研究発表申込締め切り |
| 2017 年 6 月 19 日(月) | 抄録原稿提出締め切り |
| 2017 年 6 月 30 日(金) | 速報版プログラムウェブ公開予定 |
| 2017 年 7 月 28 日(金) | プログラム冊子送付予定 |
| 2017 年 8 月 4 日(金) | 事前参加申込締め切り |
| 2017 年 8 月 8 日(火) | 事前参加費振込締め切り |
| 2017 年 8 月 29 日(火)～9 月 1 日(金) | 第 45 回大会(29 日はチュートリアルセミナー) |

3. 参加費等

(1) チュートリアルセミナー参加費

	正会員	準会員(学生)	賛助会員	非会員(一般)	非会員(学生)
早期振込	3,000 円	2,000 円	3,000 円	6,000 円	4,000 円
当日支払	4,000 円	3,000 円	4,000 円	7,000 円	5,000 円

- 早期振込は Web による参加申込(8 月 4 日まで)と、参加費振込(8 月 8 日まで)をともに行われた方が対象です。
- それ以後は当日会場にて、参加のお申込みと会費をお支払いください。

(2) 大会参加費

	正会員	準会員(学生)	賛助会員	非会員(一般)	非会員(学生)
早期振込	5,000 円	2,000 円	5,000 円	10,000 円	5,000 円
当日支払	7,000 円	4,000 円	7,000 円	12,000 円	6,000 円

- 大会参加費には抄録集 1 冊を含みます。
- 正会員には名誉会員・シニア会員を含みます。
- 賛助会員は 3 名様まで無料です。事前に参加券を 3 枚お送りしますので、この券を持参された方が対象です。4 人目以降は、上記金額です。なお、事前参加申込みより無料の登録を行った方も、当日必ず参加券をご持参ください。
- 抄録集は 1 冊 3,000 円で頒布します。
- 早期振込は Web による参加申込(8 月 4 日まで)と、参加費振込(8 月 8 日まで)をともに行われた方が対象です。それ以後は当日会場にて、参加のお申込みと会費をお支払いください。

(3) 懇親会費

種別	一般	学生
早期振込	5,000 円	1,000 円
当日支払	6,000 円	1,000 円

- 定員に達した場合は受付を終了することがあります。
- 早期振込は Web による参加申込(8 月 4 日まで)と、参加費振込(8 月 8 日まで)をともに行われた方が対象です。それ以後は当日会場にて、参加のお申込みと会費をお支払いください。

4. 振込先

	ゆうちょ銀行 振替口座
記号番号	00190-4-386225
加入者名	日本行動計量学会大会
口座名称(カナ)	ニホンコウドウケイリョウガッカイタイカイ

他の金融機関からゆうちょ銀行へお振り込みされる場合は、下記情報をご利用ください。

銀行名	ゆうちょ銀行
店名	〇一九店(ゼロイチキュー店)
店番	019
預金種目	当座
口座番号	0386225

※恐れ入りますが、振り込み手数料はご負担くださいますようお願い申し上げます。

5. 宿泊について

宿泊先は予約、斡旋しておりません。草薙駅周辺にはほとんど宿泊施設がありませんので、静岡駅周辺のホテルで宿泊されることをお勧めします。最近、宿泊の予約が取りにくいという情報も寄せられていますので、早めの予約をお勧めします。

6. 昼食について

本学のはばたき棟地下1階に食堂がございます。大学の周辺にはほとんど食堂の類がありません。ご持参頂くか本学食堂をご利用頂ければと存じます。

無線 LAN

キャンパス内では無線 LAN の使用が可能です。ただし、それほど大人数に対応できるものではなく、通信速度については遅くなる可能性がありますので、それをご理解の上、ご利用ください。利用方法などについては希望される方に接続する SSID やインターネット認証のパスワードを受付にて配布します。セキュリティ対策を万全にした上でのご利用をお願いします。

会場の機器と発表用資料について

発表(「オーラル(口頭)」、「ラウンドテーブル」)には、液晶プロジェクタおよび大型スクリーンが利用できます。コネクタは VGA 方式に対応しております。PC はご自身のものをご持参ください。Mac OS の場合は変換アダプタをご用意ください。また、セッション開始前に接続テストを済ませてください。何か不都合がございましたら、大会実行委員会にご相談ください。

発表用の資料は原則として抄録集に掲載されたものとします。オーラル(口頭)セッションで補足資料を利用する場合は、50 部程度を目安として配付プリントをご持参ください。

一般セッションについて

本大会は、ある特定テーマについて議論を行う「特別セッション」と一般研究発表を行う「一般セッション」から構成されます。第 45 回大会の一般セッションの発表形態には「ポスター」、「オーラル（口頭）」があります。

一般セッション「ポスター」では、割り当てられたセッション中にポスターを掲示し、かつ、各ポスターの発表者が在席責任時間の 60 分間、質疑に応じます。詳細については、別項目「ポスターセッションについて」に記載されていますので、そちらをご覧ください。

一般セッション「オーラル（口頭）」における発表時間は、質疑応答を含めて 20 分です。座長の指示に従い、時間厳守でお願いいたします。「会場の機器と発表用資料について」の説明もご覧ください。

特別セッションについて

本大会は、ある特定テーマについて議論を行う「特別セッション」と一般研究発表を行う「一般セッション」から構成されます。第 45 回大会の特別セッションの発表形態には、「ポスター」、「オーラル（口頭）」、「ラウンドテーブル」があります。

特別セッション「オーラル（口頭）」は、1 セッション 120 分で、3 件以上の発表をまとめ、一つの企画として実施されます。セッションは、オーガナイザー、司会者、討論者により進行します。それぞれのテーマに沿って発表を行い、発表に関しては、フロアーからの質疑応答も可能です。その 1、その 2 として、複数セッションで実施されることもあります。

特別セッション「ラウンドテーブル」については、別項目「ラウンドテーブル・ディスカッションについて」に記載されていますので、そちらをご覧ください。

いずれも発表形式の詳細については事前にオーガナイザーの方にお問い合わせください。また、あわせて「会場の機器と発表用資料について」の説明もご覧ください。

ポスターセッションについて

一般セッション「ポスター」は、2017年8月31日(木)12:30～13:30に看護学部棟4階 13408、13409、13413、13414 演習室を会場として実施します。発表は、次の要項に従って行いますので、発表者の方は、間違いのないようにしてください。

【ポスター発表の成立について】

1. ポスター発表は、指定された時刻までに会場の指定されたボード位置にポスターを掲示し、指定された責任在席時間(60 分間)中、在席し、質疑に応じることにより、正式発表とみなされます。
2. 責任在席時間は、2017 年 8 月 31 日(木)12:30～13:30 の 60 分間とします。責任在席時間以外の時間に在席されることは自由です。
3. 12:30 に、ポスターセッションの座長が席に着き、発表者の在席を順次確認します。その後、13:30 にも発表者の在席を確認します。
4. ポスター発表者が欠席した場合、および責任在席時間にいない場合は、「発表取消」となります。発表者の欠席、(連名発表の場合の)発表者の交替などについては、会期前は大会実行委員会に、会期中はポスターセッション座長にご連絡ください。

【ポスターの準備について】

5. ポスター掲示板(ボード)の大きさは、縦 90cm×横 180cm(A0 サイズのポスターが掲示可能です。これをポスターの大きさの上限として作成してください。
6. ポスターの上部には、発表題目と発表者全員の氏名と所属をご記入ください。連名の場合には主発表者に○印を付けてください。

【発表当日について】

7. 発表者は、発表当日の 11:20 までに総合受付で発表手続を行ってください。発表者の到着確認を行います。その際、ポスター掲示用の押しピンを受け取り、発表会場の指定された番号のボードにポスターを貼ってください(もし別の方法でポスターを貼り付けたい場合は、必要なものをご持参ください)。
8. 発表者がどの部屋で発表を行うかは、ポスター会場にわかるように掲示しますので、ご確認の上、ご準備ください。
9. 発表者は、11:30 までに貼り付け作業を終了してください。11:30 の時点で貼り付けが終了されていることを実行委員が確認します。
10. 発表用の資料は原則として抄録集に掲載されたものとします。補足資料を配付される方は、50 部程度をご持参ください。配付も各自でお願いします。
11. 掲示したポスターは、ポスターセッションの座長が終了をお知らせした後、16:30 までに片付けてください。それ以降も掲示したままのポスターは大会実行委員会に取り外し、処分いたします。

ラウンドテーブル・ディスカッションについて

本大会では、大会実行委員会企画としてラウンドテーブル・ディスカッションを行います。ラウンドテーブル・ディスカッションは、円卓を囲み、話題提供者（「発表者」、「オーガナイザー」）のテーマについて自由に意見を交換しながら議論する場です。先着順にテーブルに着席した参加者は「討論者」として自由に発言できます。しかし、議論した結果が特定の結論に至ることを目的としません。

ラウンドテーブル・ディスカッションは研究成果を報告するだけでなく、現在抱えている研究上の疑問、現場での課題、課題についての解決策などを持ち寄り、参加者全員で当該のテーマについて議論します。また、これまでの現場での体験や研究成果をもとに新たな仮説を提案し、それをもとに議論することも可能です。

1つのセッションの時間は60分となります（セッションを2つ組み合わせた120分のセッションもあります）。一般セッションとは異なり、十分な時間をかけて話題提供者と討論者が自由に意見交換を行い、テーブルを囲む全員が同じ立場と目線で話し合います。また、議論した内容を踏まえた上で、話題提供者だけでなく、参加している方々の研究についても、改めて深く考えていただき、今後のご自身の研究をどのように発展させたいかを考え、その内容をグループで共有し、さらに意見や感想をやりとりしていただくような研究者の交流の場としてもご活用いただければと思います。さらに、テーブルを囲む討論者以外で、周囲のオブザーバー（テーブルの周囲の聴衆）も議論に参加することも可能です。話題提供者と討論者が意見を交わしている状況に、オブザーバーが発言していただいてもかまいません。

なお、本大会では会場設営の都合上、円卓ではなくテーブルを口の字（四角）に配置し、椅子を10～15脚程度準備します。話題提供者も討論者もともに着席します。参加希望者が多い場合は、周りのオブザーバー用の席をご利用いただきます。

1. ラウンドテーブル・ディスカッションは話題提供者（「発表者」、「オーガナイザー」）も参加者（討論者）も、ともに着席して開始します。なお、途中の入退場は極力お控えください。

「オーガナイザー」…セッションの企画者

「司会者」…話題提供者と討議の開始と進行を支える参加者

「発表者」…セッションにおける報告者

「討論者」…テーブルを囲んで討論する参加者

「オブザーバー」…テーブルの周囲の聴衆

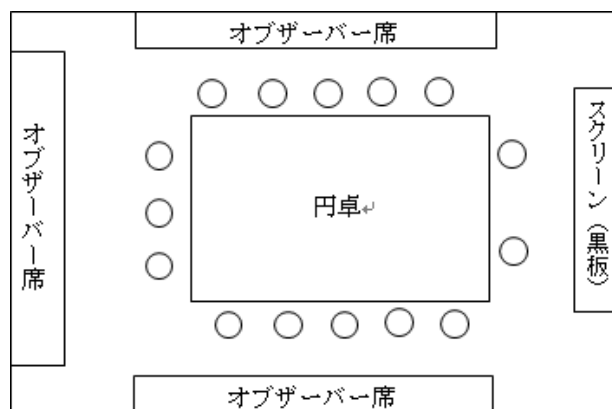
（注）「参加者」は上記の全員、「話題提供者」は「オーガナイザー」と「発表者」の両方を指します。

2. まずは話題提供者が、研究の概要と論点についての説明を行ってください。セッションの時間の半分以上を討論の時間に充てるため、この説明が長くなりすぎないように気をつけてください。
3. 次に討論者全員が、ショートコメントをまじえた自己紹介を行ってください。
4. その後は話題提供者の発表の流れに沿いながら、討論者などからのコメントをまじえ、参加者全員で意見交換を進めてください。意見が活発に出始め、論点が具体化したら、その流れに任せてください。

5. 司会者は第一の参加者として発言者を助け、ラウンドテーブルを囲む全員が交流できるよう、話題提供者と討議の開始と進行を支えてください。議論のための時間(セッションの半分以上)を確保するだけでなく、参加者に対し発言を促すようなことも状況に応じて行ってください。ただし、研究報告の主体は話題提供者であり、討議の主体は話題提供者と討論者です。司会者が進行に気を使わずとも、両者の発言が順調に進み始めたら、司会者は討議について自然の成り行きに任せてください。なお、司会者は、全体の意見をまとめたり、結論づけたりすることに責任を負う必要はありません。一参加者として、意見の交流を楽しんでください。また、討論者や他の参加者と協力し、時間どおりの開始と終了を目指して、時間の管理と進行をお願いします。
6. 今回のラウンドテーブル・ディスカッションでは、討議に加わらず、オブザーバーとして周囲で見学をするだけでも構いません。しかし、ご自身の意見を一言述べていただくだけでも研究の交流が生まれますので、可能な限りテーブルに着席し、討議に参加してください。一人でも多くの方にテーブルに着席して議論に参加していただければ、意見交換も盛り上がると思います。積極的なご参加をお願いいたします。

※話題提供者はテーマについて議論できるような発表用の資料(プレゼン用ファイル、配付資料等)をご準備ください。補足資料がある場合は 30 部程度を目安として配付資料をご用意ください。発表には液晶プロジェクタ(VGA 方式)が利用できます。PC はご自身のものをご用意の上、セッション開始前に接続テストを済ませてください。

ラウンドテーブル・ディスカッション会場イメージ



*会場によっては若干イメージと異なる場合があります。

チュートリアルセミナー

日 時: 2017 年 8 月 29 日(火) 13:30~16:30 (13:00 受付開始、途中休憩をはさむ)

テーマ A: 行動意思決定論と過程追跡技法

講 師：竹村 和久（早稲田大学）
会 場：経営情報学部棟 4111 講義室
概 要：

本セミナーでは、行動意思決定理論をわかりやすく説明することを目指して、これに関係するさまざまな理論やモデルを紹介して、眼球運動測定、言語プロトコル法、情報モニタリング法、画像解析法などの具体的な過程追跡技法について紹介して、研究例を示す。具体的には、行動経済学でもよく用いられるプロスペクト理論、累積プロスペクト理論、適応意思決定モデル、優越構造探索モデルなどについて解説を行い、どのようにして、実証研究がなされているかを説明して、消費者行動研究やマーケティング研究などへの応用例を示す。また、我々の研究室で開発を行っている数理モデル、計量モデルの紹介や眼球運動測定と解析、言語プロトコル法、情報モニタリング法、計算機シミュレーション研究、ギャンブル実験による確率荷重関数の推定研究の紹介、さらには、定量的、定性的な実証研究の知見についても報告を行う。

テーマ B：ソーシャルネットワーク上での情報拡散モデルと推定技法

講 師：齊藤 和巳（静岡県立大学）
会 場：経営情報学部棟 4109 講義室
概 要：

Facebook や Twitter などのソーシャルメディアの急速な普及に伴い、大規模なソーシャルネットワークがインターネット上に構築されている。ここで言うソーシャルネットワークとは、ユーザ、もしくは組織などの社会的主体をノードとし、それらが友人関係などの関係性に基づいて結合したネットワークを指す。そして情報発信などのインターネット上でのユーザ行動などにより、そのようなソーシャルネットワークを介して、アイデアや意見、デマに至るまで非常に多様な情報が急速、かつ大規模に拡散し、我々の日常生活に多大な影響を与えつつある。このような現状を踏まえ、本チュートリアルセミナーでは、大規模ネットワークにおいて情報拡散影響度を効率よく高い精度で予測推定するための理論、モデル、及び各種技法について紹介する。具体的には、まず、1) 独立カスケード(IC: Independent Cascade) モデルや線形閾値(LT: Linear Threshold) モデルなどの情報拡散の基本確率モデルについて説明する。また、2) 情報拡散モデルに基づき情報拡散影響度の高いユーザなどをノード集合として求める影響最大化問題とその一連の代表的な解法について解説する。さらに、3) より現実的な情報拡散を再現するモデルの構築に向け、情報拡散モデルのパラメータ学習法についても紹介する。

参 加 費：

	正会員	準会員(学生)	賛助会員	非会員(一般)	非会員(学生)
早期振込	3,000 円	2,000 円	3,000 円	6,000 円	4,000 円
当日支払	4,000 円	3,000 円	4,000 円	7,000 円	5,000 円

※早期振込は Web による参加申込(8 月 4 日(金)まで)・参加費振込(8 月 8 日(火)まで)ともに行われた方が対象です。それ以後は会場で「当日支払」の会費をお支払いください。

初参加者ガイダンス

8月29日(火) 12:00~13:00

学会大会に初めて参加される方のために、学会初日に当たる8月29日(火)の12:00から、初参加者ガイダンスを行います。

大会担当委員会、広報委員会、第45回大会実行委員会が合同で開催するランチョンセッションです。学会大会への初参加者(自己申告)が出席できます。ランチやドリンクの準備の都合上、できるだけ参加予定の方は事前に予約してください。予約先は実行委員会(bsj2017@u-shizuoka-ken.ac.jp)です。予約の際は、お名前とご所属をお知らせください。ラウンドテーブル用の教室を使いますので、先着15名程度で打ち切ることがあります。

ランチョンセッションですので、ランチを楽しみながらラウンドテーブル形式で、最近の学会の活動の紹介(それを分析した発表)と交流会を実施します。続けてチュートリアルにも参加できるように終了しますが、チュートリアルセミナーのみの参加者は参加できません。参加できるのは、大会本体への申込み者のみです。

※会場については、当日受付でご確認下さい。

※理事や委員の方でガイダンスにご協力いただける方は、大会担当委員会までご連絡ください。

懇親会

8月31日(木)18:30~20:30

静岡駅前のホテルアソシアで、懇親会を行います。参加費は一般が早期振込5,000円、当日支払6,000円、学生は早期振込・当日支払ともに1,000円です。早期振込はWebによる参加申込(8月4日(金)まで)・参加費振込(8月8日(火)まで)ともに行われた方が対象です。

住 所: 〒420-0851 静岡県静岡市葵区黒金町56番地

電話: 054-254-4141

〈アクセス〉



(県立大学からのアクセス)

JR草薙駅より乗車、静岡駅で下車します。

JR静岡駅改札を出て北口方面へ向かいます。

地下へはおりずに出口(北口)を出て右へ、目の前の建物です。

★JR静岡駅 北口から徒歩1分です



第 45 回大会シンポジウム

第 45 回大会では以下のとおり大会シンポジウムを実施します。

日 時：2017 年 8 月 31 日(木)13:40～15:10

会 場：静岡県立大学看護学部棟 4 階 13411 講義室

タイトル：行動計量学会と林知己夫 ―生誕百年を記念して―

オーガナイザー：松原 望(東京大学名誉教授)、林文(東洋英和女学院大学)、森本栄一(ビデオリサーチ)

司 会：村上征勝(勉強文化情報研究所所長、統計数理研究所名誉教授、総合研究大学院大学名誉教授)

講 演 者：

飽戸 弘(東京大学名誉教授) 数量化理論から多次元尺度解析、そしてデータの科学へ

馬場康維(統計数理研究所) 数えること・測ること・尺度をつくること

松原 望(東京大学名誉教授) 「データ・サイエンス」はいい味方か

討 論 者：吉野諒三(統計数理研究所)、その他フロアーからの討論者予定

概 要：

戦後日本の統計学の発展を担われ、行動計量学の基礎を築き、晩年は「データの科学」を提唱された初代理事長の林知己夫先生のご思想は今日の様々な研究課題にも多くの示唆を与えてくれている。昨今のビックデータ、データ・サイエンス、人工知能等のブーム一辺倒の中、林先生の功績を辿ることにより、行動計量学研究のあり方を模索するシンポジウムとしたい。

特別講演「柳井レクチャー」

第 45 回大会では以下のように特別講演「柳井レクチャー」を実施します。柳井レクチャーは、2013 年に逝去された故柳井晴夫先生の、行動計量学に関するご業績および学会へのご貢献を顕彰するため 2014 年 11 月 10 日開催の理事会にて創設が決定されました。柳井レクチャーでは、故柳井晴夫先生のご業績に鑑み行動科学における計量的方法の理論と応用について、講演者を毎年 1 名選出し、大会時に 1 時間程度の特別講演を行っていただきます。

日 時：2017 年 8 月 31 日(木)15:20～16:20

会 場：静岡県立大学看護学部棟 4 階 13411 講義室

タイトル：水野欽司と行動計量学 ―林知己夫との絆を中心に―

講演者：岩坪 秀一（大学入試センター名誉教授）

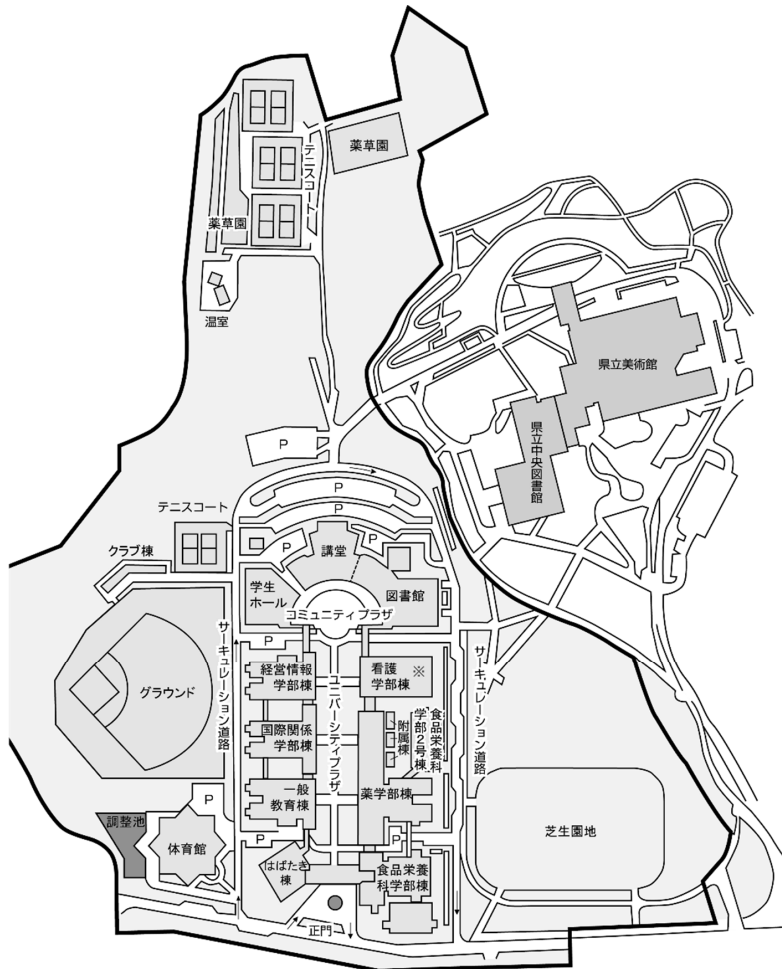
概 要：

故水野欽司(以下 水野)は、日本行動計量学会に創立当初から深く関わり、庶務担当理事をはじめ理事として永年学会を支え、1991 年 4 月から 1994 年 3 月までは第 3 代理事長を務めた。1988 年に功績賞受賞、名誉会員であり、さらに肥田野直・水野欽司賞(奨励賞)に名前が残っている。林知己夫(以下 林)は、早くから水野の傑出した才能を認め、共に歩むかけがえのない同志と考えていた。

水野の行動計量学会における研究業績がどのようなものであったかは意外と知られていない。行動計量学会の今後の発展のために、その貢献を出来るだけ包括的に紹介したい。「水野欽司先生を偲ぶ会」(2000 年 3 月 11 日)における林の挨拶「水野欽司さんを偲んで」* には、林と水野がいかに緊密な関係にあったかが随所に現れている。この林の挨拶及び両偉人に接して私の心に深く刻まれていることを活かして紹介するつもりである。私の力不足から、偉大な人物の全貌を描き得るとはとても言えないが、会員諸氏、とくに若い人たちの参考になれば幸甚の至りである。

*『林知己夫著作集 15〈未来を祭れ〉』(勉誠出版、2004)に収録。

静岡県立大学キャンパスマップ



※小鹿キャンパスとの2キャンパス制



最寄り駅からのアクセス

<電車>

JR「草薙駅」南口(県大・美術館口)
または静岡鉄道「県立美術館前駅」
同「草薙駅」から 徒歩 15 分

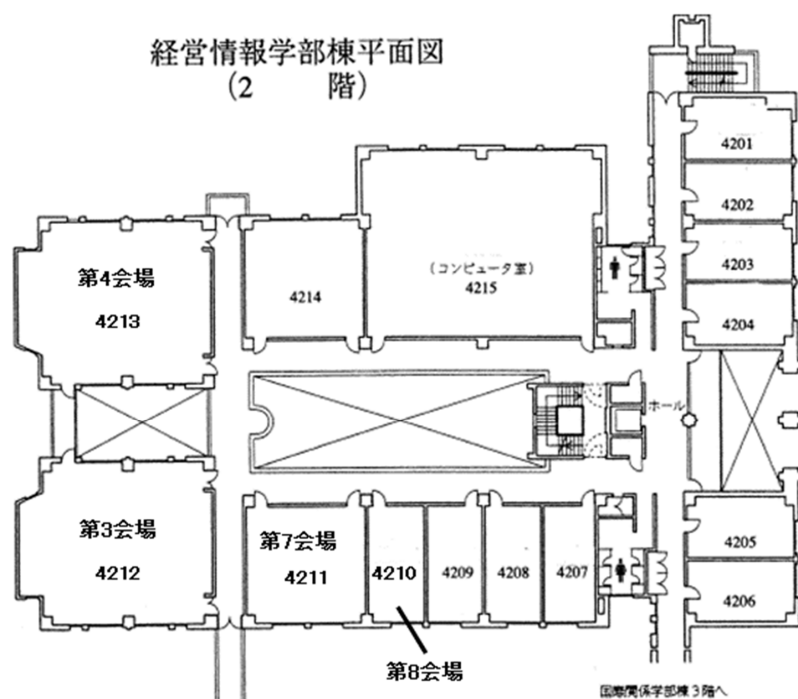
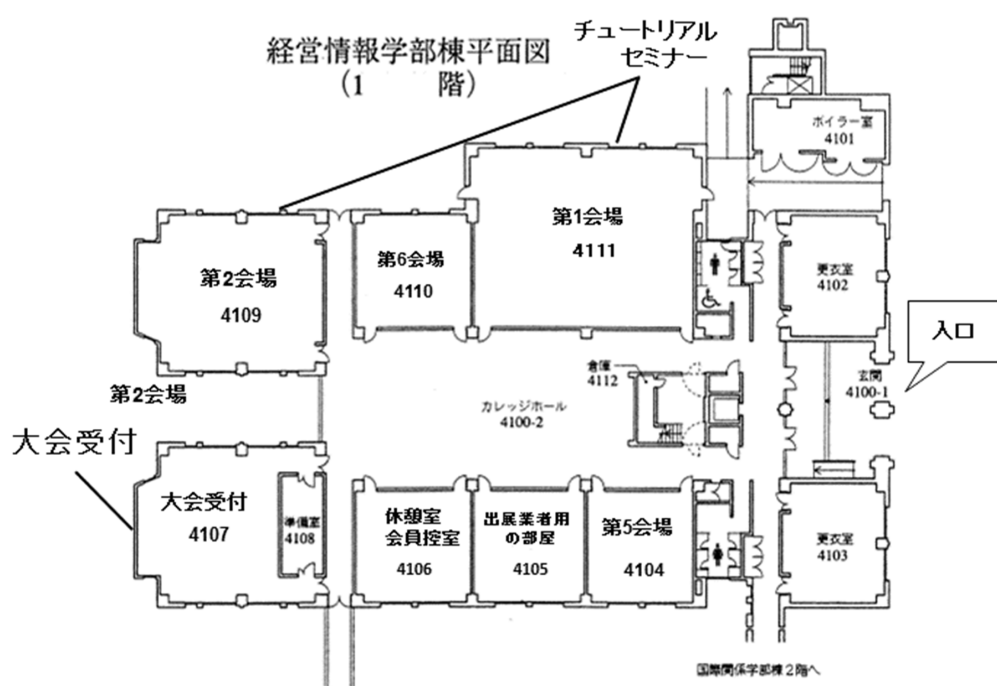
<バス>

JR「草薙駅」南口(県大・美術館口)
より、しずてつジャストライン 草薙団
地行き(三保草薙線)で、「県立大学
入口」下車 約 5 分

* 平日の午前のみ、「県立大学前」
下車が可能です 下車 0 分

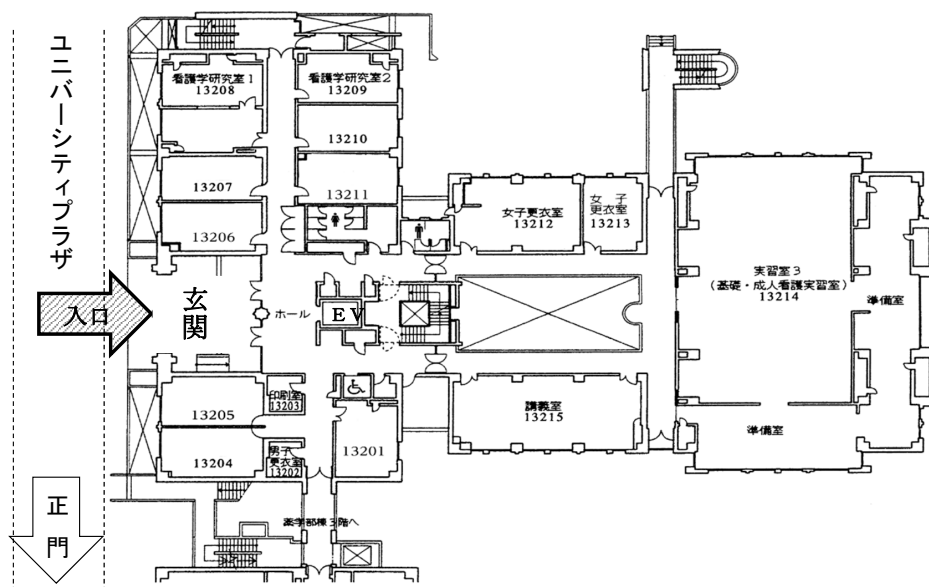
※会場は草薙キャンパスです。お間違えの無い様お越しください。

会場見取り図

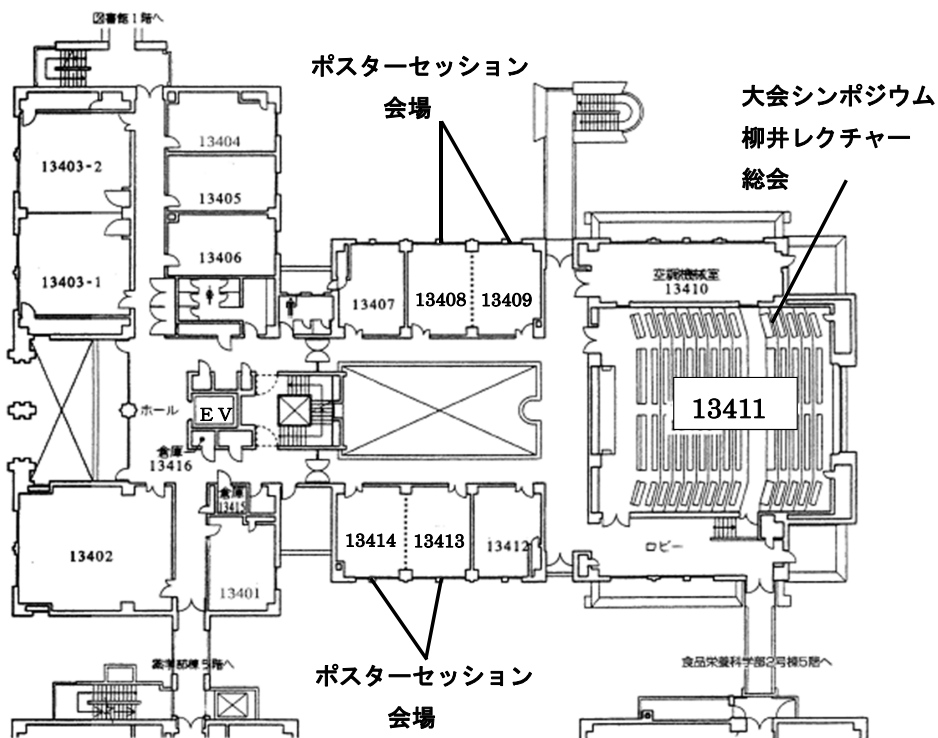


看護学部棟平面図 (2 階)

※入口は 2 階になりますので
ご注意ください。



看護学部棟平面図 (4 階)



プログラム

8月29日(火)	
12:00 ～ 13:00	ラウンドテーブル SS0021 日本行動計量学会大会初参加者ガイダンス
13:30 ～ 16:30	チュートリアルセミナー
テーマA タイトル: 行動意思決定論と過程追跡技法 講師: 竹村 和久(早稲田大学) 会場: 経営情報学部棟4111講義室	テーマB タイトル: ソーシャルネットワーク上での情報拡散モデルと推定技法 講師: 斉藤 和巳(静岡県立大学) 会場: 経営情報学部棟4109講義室

8月30日(水)									
	第1会場 4111講義室	第2会場 4109講義室	第3会場 4212講義室	第4会場 4213講義室	第5会場 4104講義室		第6会場 4110講義室	第7会場 4211演習室	第8会場 4210演習室
10:00 ～ 12:00	特別セッション	特別セッション	特別セッション	一般セッション					
	SS0003 林知己夫の業績とその後の発展(1)	SS0007 観光・災害に関する行動分析 ―静岡県を中心に―	SS0002 WEB調査における回答行動の検討: 回答者と質問形式の交互作用及び回答時間データの利用	非数値データの分析					
12:00 ～ 13:00	昼食								
13:00 ～ 15:00	特別セッション				ラウンドテーブル		ラウンドテーブル	ラウンドテーブル	ラウンドテーブル
	SS0004 林知己夫の業績とその後の発展(2)				SS0006 持続可能なインターネット調査の在り方について考える		13:00 ～ 14:00	SS0014 人工知能時代のマーケティング	SS0022 統計的因果推論・徹底討論ラウンド3
						14:10 ～ 15:10	SS0011 大規模教育調査における能力の捉え方について ― OECD-PISA調査と文部科学省情報活用能力調査の経験から	SS0018 データ分析と意思決定	SS0016 研究IRにおける統計家が直面する課題
15:20 ～ 17:20	特別セッション				ラウンドテーブル		ラウンドテーブル	ラウンドテーブル	ラウンドテーブル
	SS0013 データドリブンなマーケティングの実践				SS0008 調査法研究の新展開: 質問調査で事実 はわかるのか? なぜ調査が必要なのか? 乖離の理解と介入改善に向けて		15:20 ～ 17:20	SS0009 インフォグラフィックスを用いた統計グラフポスターの課題と展開	SS0012 意思決定研究における過程追跡技法の新展開

8月31日(木)									
	第1会場 4111講義室	第2会場 4109講義室	第3会場 4212講義室	第4会場 4213講義室	第5会場 4104講義室				
	特別セッション	一般セッション	一般セッション	一般セッション	ラウンドテーブル				
9:30 ～ 11:30	SS0001 社会 調査データ解析	数学・統計	計量文献学	項目反応理論	SS0017 データ サイエンスの今 日的動向				
11:30 ～ 12:30	昼食								
12:30 ～ 13:30	ポスター発表 会場：看護学部棟4階13408、13409、13413、13414演習室								
13:40 ～ 15:10	大会シンポジウム タイトル： 行動計量学会と林知己夫 一生涯百年を記念して— 講演者： 飽戸 弘(東京大学名誉教授)、馬場 康維(統計数理研究所)、 松原 望(東京大学名誉教授) 司会者： 村上 征勝(勉誠文化情報研究所) 討論者： 吉野 諒三(統計数理研究所)、その他フロアからの討論者予定 会場： 静岡県立大学看護学部棟4階13411講義室								
15:20 ～ 16:20	柳井レクチャー タイトル： 水野欽司と行動計量学 —林知己夫との絆を中心にして— 講演者： 岩坪 秀一(大学入試センター名誉教授) 司会者： 岩崎 学(成蹊大学・横浜市立大学) 会場： 静岡県立大学看護学部棟4階13411講義室								
16:30 ～ 17:30	総会 会場：静岡県立大学看護学部棟4階13411講義室								
18:30 ～ 20:30	懇親会 会場：ホテルアソシア(静岡駅前)								

9月1日(金)									
	第1会場 4111講義室	第2会場 4109講義室	第3会場 4212講義室	第4会場 4213講義室					
	特別セッション	特別セッション	特別セッション	一般セッション					
9:30 ～ 11:30	SS0019 各種 調査法における 調査周辺情報と 回答行動の分析	SS0010 非対 称データの分 析：方法と応用	SS0005 言語 運用力と数理分 析力を測定する ための試験の開 発	マーケティング1					
11:30 ～ 12:30	昼食								
12:30 ～ 14:30	一般セッション 調査データの収 集・分析	一般セッション 統計手法開発・ 評価	一般セッション 心理	一般セッション マーケティング2 (12:30-13:30) 工学 (13:35-14:35)					

8 月 30 日(水)

10:00-12:00

8 月 30 日(水) 特別セッション(120 分) 【第 1 会場 4111 講義室】
林知己夫の業績とその後の発展(1)

オーガナイザー: 林文(東洋英和女学院大学)

司会者: 森本栄一(ビデオリサーチ)

SB2-1-1

日本における統計学の発展から見た林知己夫の業績

○上藤 一郎(静岡大学人文社会科学部経済学科), 森本 栄一(ビデオリサーチ)

SB2-1-2

林知己夫と統計数理

ー 数量化法・国民性調査・選挙予測の開発などー

○高倉 節子(元長崎純心大学大学院), 森本 栄一(ビデオリサーチ)

SB2-1-3

人を掌握する力

ー学会運営をご一緒させていただいてー

○林 篤裕(名古屋工業大学 大学院工学研究科 社会工学専攻)

SB2-1-4

電話調査導入による選挙予測モデルの変遷

ー林知己夫との議論から得たものー

○松田 映二(埼玉大学社会調査研究センター)

SB2-1-5

分子進化速度が語る動物行動の進化

中立説が示唆するもの

呉 佳齊(東京大学農学生命科学研究科), 米澤 隆弘(復旦大学生命科学学院), ○岸
野 洋久(東京大学農学生命科学研究科)

8 月 30 日(水) 特別セッション(120 分) 【第 2 会場 4109 講義室】
観光・災害に関する行動分析 ー静岡県を中心にー

オーガナイザー, 司会者: 井本智明(静岡県立大学)

オーガナイザー: 湯瀬裕昭(静岡県立大学)

討論者: 杉浦茂樹(東北学院大学)

SB2-2-1

大学の安否情報システム利用者による安否登録行動の分析

○湯瀬 裕昭(静岡県立大学経営情報学部), 鍋田 真一(静岡学園高等学校), 相良 宗臣(熊本県立大学総合管理学部)

SB2-2-2

経路検索データから見える観光動態の現状と課題

○尾久土 正己(和歌山大学観光学部)

SB2-2-3

観光客の行動の取得とパターン化についての取り組み

～博物館における鑑賞行動と浜松市の中国人宿泊客の観光行動～

○杉山 岳弘(静岡大学情報学部)

SB2-2-4

GPS 調査とアンケート調査による静岡県の観光行動分析

○渡邊 貴之(静岡県立大学大学院経営情報イノベーション研究科), 長島 弘志(静岡県立大学大学院経営情報イノベーション研究科), 大石 真生(静岡県立大学大学院経営情報イノベーション研究科), 湯瀬 裕昭(静岡県立大学大学院経営情報イノベーション研究科), 武藤 伸明(静岡県立大学大学院経営情報イノベーション研究科), 大久保 あかね(日本大学短期大学部), 木村 ともえ(JTB 中部)

8 月 30 日(水) 特別セッション(120 分)【第 3 会場 4212 講義室】

WEB 調査における回答行動の検討: 回答者と質問形式の交互作用及び回答時間データの利用

オーガナイザー, 司会者: 増田真也(慶応義塾大学看護医療学部)

討論者: 坂上貴之(慶應義塾大学文学部)

SB2-3-1

Web 調査における回答時間と回答中断行動

○山田 一成(東洋大学社会学部)

SB2-3-2

階層帰属意識に対する選択肢レイアウトの影響

擬似的無視かヒューリスティックスか?

○木村 邦博(東北大学大学院文学研究科), 上原 俊介(鈴鹿医療科学大学保健衛生学部)

SB2-3-3

Numeracy が Web 調査の異なる質問形式での回答傾向に与える影響

○広田 すみれ(東京都市大学メディア情報学部 社会メディア学科)

SB2-3-4

標本抽出フレームの違いがもたらす態度測定への影響

○吉村 治正(奈良大学), 佐々木 てる(青森公立大学), 正司 哲朗(奈良大学), 澁谷 泰秀(青森大学), 渡部 諭(秋田県立大学), 小久保 温(八戸工業大学)

SB2-3-5

Web 調査における不良回答の検出法の比較と減少のための試み

○増田 真也(慶應義塾大学看護医療学部)

8 月 30 日(水) 一般セッション(80 分) 【第 4 会場 4213 講義室】

非数値データの分析

座長:中村永友(札幌学院大学)

CA1-1 10:00～10:20

若者の政治参加認識

ー政治参加形態に対する自由回答データ分析ー

○岡田 陽介(拓殖大学政経学部)

CA1-2 10:20～10:40

カラーコードを用いた絵画作品の色彩的特徴分析

○行村 隆平(同志社大学大学院文化情報学研究科), 金 明哲(同志社大学文化情報学部)

CA1-3 10:40～11:00

中国ショッピングサイトにおける信憑性が低いレビューの特徴分析

○袁 徐晟(同志社大学文化情報学研究科), 金 明哲(同志社大学文化情報学部)

CA1-4 11:00～11:20

語彙の豊富さを表す指標の改良と評価

○鄭 穹穹(同志社大学文化情報学研究科), 金 明哲(同志社大学文化情報学部)

13:00-15:00

8 月 30 日(水) 特別セッション(120 分) 【第 1 会場 4111 講義室】

林知己夫の業績とその後の発展(2)

オーガナイザー:林文(東洋英和女学院大学)

司会者:山岡和枝(帝京大学大学院公衆衛生学研究科)

SB2-4-1

QOL の日蘭研究

○山岡 和枝(帝京大学大学院公衆衛生学研究科), 松田 彩子(帝京大学医学部衛生学公衆衛生学講座), 小林 国彦(埼玉がんセンター)

SB2-4-2

日本人の健康観

国際比較調査の回答傾向

○角田 弘子(日本ウェルネススポーツ大学), 吉野 諒三(統計数理研究所), 林 文(統計数理研究所)

SB2-4-3

林知己夫が考えた臨床医学研究・疫学研究のあり方

○宮原 英夫(つくば国際臨床薬理クリニック), 清水 和彦(豊橋創造大学保健医療学部)

SB2-4-4

林知己夫と調査業界

○鈴木 督久((株)日経リサーチ)

8月30日(水) ラウンドテーブル(120分)【第5会場 4104 講義室】 持続可能なインターネット調査の在り方について考える

オーガナイザー, 司会者:村上智章(株式会社マクロミル)

オーガナイザー, 討論者:岸田典子(株式会社クロス・マーケティンググループ),
二瓶哲也(株式会社インテージ)

SB2-5-1

ネットリサーチの課題

ネットリサーチの現状ー調査会社の視点ー

○岸田 典子((株)クロス・マーケティング)

SB2-5-2

スマートフォンの普及がネットリサーチに及ぼす影響

PC とスマートフォンのアンケート回答の比較

○加藤 宏(株式会社インテージ), 二瓶 哲也((株)インテージ)

SB2-5-3

ネットリサーチモニターに必要な働き方改革

○村上 智章(株式会社マクロミル)

13:00-14:00

8月30日(水) ラウンドテーブル(60分)【第6会場 4110 講義室】 人工知能時代のマーケティング

オーガナイザー, 司会者, 討論者:中山厚穂(首都大学東京 都市教養学部経営学系)

オーガナイザー, 討論者:鶴見裕之(横浜国立大学大学院国際社会科学研究院)

SB2-6-1

人工知能時代のマーケティング

○中山 厚穂(首都大学東京大学院社会科学部経営学専攻), 鶴見 裕之(横浜国立大学大学院国際社会科学研究院経営学専攻)

8月30日(水) ラウンドテーブル(60分)【第7会場 4211 演習室】
統計的因果推論・徹底討論ラウンド3

オーガナイザー, 司会者, 討論者:

星野崇宏(慶應義塾大学 経済学部・大学院経済学研究科),

黒木学(横浜国立大学大学院工学研究院)

SB2-7-1

統計的因果推論の新展開: 異質性と研究デザイン

○星野 崇宏(慶應義塾大学 経済学部・大学院経済学研究科), ○黒木 学(横浜国立大学)

8月30日(水) ラウンドテーブル(60分)【第8会場 4210 演習室】
教学IRにおける統計家が直面する課題②

オーガナイザー: 森裕一(岡山理科大学経営学部)

討論者: 吉田清隆(神戸親和女子大学 IR 推進室)

SB2-8-1

教学IRにおける統計家が直面する課題2

○吉田 清隆(神戸親和女子大学)

14:10-15:10

8月30日(水) ラウンドテーブル(60分)【第6会場 4110 講義室】
大規模教育調査における能力の捉え方について
—OECD-PISA 調査と文部科学省情報活用能力調査の経験から—

オーガナイザー, 司会者: 褒岩晶(国立教育政策研究所)

SB2-9-1

「習熟度レベル」によって高校生の情報活用能力をどう捉えたか

2015年度「情報活用能力調査(高等学校)」の経験から

○篠原 真子(国立教育政策研究所)

SB2-9-2

学力調査に適した項目反応理論に基づく能力推定方法を考える

Plausible value の有効性と限界について

○褒岩 晶(国立教育政策研究所)

8月30日(水) ラウンドテーブル(60分)【第7会場 4211 演習室】
データ分析と意思決定

オーガナイザー:岡太彬訓(立教大学), 岩崎学(成蹊大学・横浜市立大学)

SB2-10-1

意思決定におけるデータ分析の役割

○岡太 彬訓(立教大学)

SB2-10-2

意思決定のための情報提供としてのデータ分析 1

○岩崎 学(成蹊大学・横浜市立大学)

8月30日(水) ラウンドテーブル(60分)【第8会場 4210 演習室】
研究IRにおける統計家が直面する課題

オーガナイザー:森裕一(岡山理科大学経営学部)

討論者:本多啓介(統計数理研究所 運営企画本部企画室 URA ステーション)

SB2-11-1

研究 IR の指標について

○本多 啓介(統計数理研究所)

SB2-11-2

研究 IR のための大規模書誌情報の活用とグラフデータベース

○浜田 ひろか(統計数理研究所データ科学研究系)

15:20-17:20

8月30日(水) 特別セッション(120分)【第1会場 4111 講義室】
データドリブンなマーケティングの実践

オーガナイザー, 司会者:中山厚穂(首都大学東京 都市教養学部経営学系)

SB2-12-1

Web コミュニケーション・データ上のトピックの分類と変化についての分析

○中山 厚穂(首都大学東京大学院社会科学部研究科経営学専攻), 増田 純也(株式会社インテージ), 鶴見 裕之(横浜国立大学大学院国際社会科学部経営学専攻)

SB2-12-2

コンジョイント分析による壁面緑化の利用者選好評価—大学教育施設を対象として—

○東野 友哉(横浜国立大学大学院都市イノベーション学府), 田中 稲子(横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院), 鶴見 裕之(横浜国立大学大学院国際社会科学部研究院), 真鍋 誠司(横浜国立大学大学院国際社会科学部研究院)

SB2-12-3

ベイズ・モデリングを用いた反応時間によるブランド・イメージの診断法の提案

○上田 雅夫(早稲田大学大学院 創造理工学研究科)

SB2-12-4

学習エンジンを用いた集客システム

一人ひとりの回答態度により出題パターンを変更する汎用学習エンジンプラットフォームの活用

○山川 義介((株)マーケットセントリクス), 菅 由紀子(株式会社 REJOU)

SB2-12-5

消費者調査における真実申告メカニズムの活用: ベイジアン自白剤によるテレビ視聴行動予測

○小野 滋((株)インサイト・ファクトリー)

SB2-12-6

ネットワーク分析を用いたオンラインコミュニティリサーチのモデレーターの役割の可視化
モデレーターの介入方法がコミュニティに及ぼす効果とは何か

○芳賀 麻誉美(大阪経済大学 経営学部)

8月30日(水) ラウンドテーブル(120分)【第5会場 4104 講義室】

調査法研究の新展開: 質問調査で事実はあるのか? なぜ調査が必要なのか?
乖離の理解と介入改善に向けて

オーガナイザー: 星野崇宏(慶應義塾大学 経済学部・大学院経済学研究科)

SB2-13-1

心理学に基づく操作介入や事後的な方法の調査への応用可能性

操作介入や事後的な方法のレビューと実験調査による検証

○竹内 真登(東北学院大学経営学部経営学科)

SB2-13-2

質問調査と行動ログの乖離と介入についての研究報告

スマートフォン利用時間の例

○中野 暁(株式会社インテージ)

8月30日(水) ラウンドテーブル(120分)【第6会場 4110 講義室】

インフォグラフィックスを用いた統計グラフポスターの課題と展開

オーガナイザー, 司会者: 竹内光悦(実践女子大学人間社会学部)

SB2-14-1

統計グラフポスター作成を踏まえた統計的問題解決力の育成授業

○竹内 光悦(実践女子大学人間社会学部)

SB2-14-2

統計グラフにおける地図を有効活用した視覚化

○久保田 貴文(多摩大学経営情報学部)

SB2-14-3

統計グラフィックスを用いた統計グラフポスター作成支援について

○藤野 友和(福岡女子大学 国際文理学部)

SB2-14-4

インフォグラフィックスの学科横断型コラボレーションによる授業

データサイエンスとインフォグラフィックスの共同授業

○山本 義郎(東海大学), 富田 誠(東海大学)

8月30日(水) ラウンドテーブル(120分)【第7会場 4211 演習室】 意思決定研究における過程追跡技法の新展開

オーガナイザー, 司会者, 討論者: 竹村和久(早稲田大学文学学術院)

SB2-15-1

意思決定研究における眼球運動データの測定と分析

○森井 真広(慶應義塾大学), 井出野 尚(徳山大学), 坂上 貴之(慶應義塾大学), 竹村 和久(早稲田大学), 岡田 光弘(慶應義塾大学)

SB2-15-2

Analysis of eyetracking data in decision making

○Kajopoulos Jasmin(早稲田大学), Murakami Hajime(Waseda University), Kawasugi Keita(Waseda University), Aikawa Marin(Waseda University), Muto Anri(Waseda University), Toda Kotaro(Kyoto Tachibana University), Nagano Mitsuro(Kyoto Tachibana University), Kitabayashi Hiroyuki(Art Insatsusho), ○Takemura Kazuhisa(Waseda University)

SB2-15-3

意思決定研究における情報モニタリング法と計算機シミュレーション

○原口 僚平(株式会社 須永総合研究所 データサイエンス部門), 竹村 和久(早稲田大学文学学術院)

8月30日(水) ラウンドテーブル(120分)【第8会場 4210 演習室】 「データの科学」の根本概念

オーガナイザー, 討論者: 木下富雄(京都大学名誉教授)

オーガナイザー, 司会者, 討論者: 丸山久美子(聖学院大学)

討論者: 真鍋一史(青山学院大学 地球社会共生学部)

SB2-16-1

林知己夫とレイ・ガットマンの方法論の比較
「数量化理論」と「ファセット・セオリー」
○真鍋 一史(青山学院大学 地球社会共生学部)

SB2-16-2

林知己夫の「データの科学」と「データサイエンス」は同質のものか
○丸山 久美子(聖学院大学名誉教授)

SB2-16-3

動的システムにおける不確かさとデータサイエンス
○中村 和幸(明治大学総合数理学部)

8 月 31 日(木)

9:30-11:30

8 月 31 日(木) 特別セッション(120 分)【第 1 会場 4111 講義室】
社会調査データ解析

オーガナイザー, 司会者: 吉野諒三(統計数理研究所データ科学研究系)

SB3-17-1

社会調査データの収集と解析の実践
調査データの読み方の注意
○吉野 諒三(統計数理研究所データ科学研究系)

SB3-17-2

未病の分析
○山岡 和枝(帝京大学大学院公衆衛生学研究科), 中田 善規(帝京大学大学院公衆衛生学研究科), 中尾 睦宏(帝京大学大学院公衆衛生学研究科), 浅山 敬(帝京大学医学部衛生学公衆衛生学講座), 井上 まり子(帝京大学大学院公衆衛生学研究科), 丹後 俊郎(医学統計学研究センター)

SB3-17-3

調査における中間回答の意味
○角田 弘子(日本ウェルネススポーツ大学), 吉野 諒三(統計数理研究所)

SB3-17-4

調査モードのデータへの影響に関する実証的分析
○鄭 躍軍(同志社大学 文化情報学部)

SB3-17-5

民主主義指標と世俗合理的価値観の連関分析
国際データによる国際関係論研究
○芝井 清久(統計数理研究所)

8月31日(木) 一般セッション(120分) 【第2会場 4109 講義室】
数学・統計

座長: 吉田清隆(神戸親和女子大学)

CA2-1 9:30～9:50

因子分析における赤池情報量規準のバイアス修正

○小笠原 春彦(小樽商科大学)

CA2-2 9:50～10:10

連続な変量を含む相互情報量の推定

R パッケージ BNSL の開発

○鈴木 譲(大阪大学 大学院基礎工学研究科 統計数理講座)

CA2-3 10:10～10:30

WAIC、WBIC、事後確率最大を用いた因子数推定

鈴木 譲(大阪大学基礎工学研究科システム創成専攻数理科学領域統計数理専攻), ○
吉岡 凜太郎(大阪大学院理学研究科数学専攻)

CA2-4 10:30～10:50

Inference of dimension number of Hilbert space for model selection of density estimator
in bootstrap-cross-validation for expectation of Bayesian evidence

○岸 清武

CA2-5 10:50～11:10

混合テンソル正規分布による複数ネットワークの推定

○宇野 光平(大阪大学大学院人間科学研究科)

CA2-6 11:10～11:30

連続・離散変換の影響評価－線形と非線形－

○馬場 康維(情報・システム研究機構 統計数理研究所)

8月31日(木) 一般セッション(120分) 【第3会場 4212 講義室】
計量文献学

座長: 横山 暁(青山学院大学)

CA3-1 9:30～9:50

宇野文学における経時的な文体変化に関する計量分析

○劉 雪琴(同志社大学大学院文化情報学研究科), 金 明哲(同志社大学文化情報学部)

CA3-2 9:50～10:10

文末拍を用いた方言分類

方言録音文字化データを資料として

○入江 さやか(同志社大学大学院文化情報学研究科), 金 明哲(同志社大学文化情報学部)

CA3-3 10:10～10:30

太宰治の前期作品における文体変化の定量的分析

○尾城 奈緒子(同志社大学大学院文化情報学研究科), 金 明哲(同志社大学文化情報学部)

CA3-4 10:30～10:50

文型を特徴量とした文章の著者識別

○黄 善玉(同志社大学大学院文化情報学研究科), 金 明哲(同志社大学文化情報学部)

CA3-5 10:50～11:10

菊池寛作品に関する代作疑惑の計量文体学的な検証

○柳 燁佳(同志社大学文化情報学研究科), 孫 昊(同志社大学文化情報学研究科), 金 明哲(同志社大学文化情報学部)

CA3-6 11:10～11:30

夏目漱石の文体の計量的な変化について

○土山 玄(同志社大学)

8 月 31 日(木) 一般セッション(120 分) 【第 4 会場 4213 講義室】

項目反応理論

座長: 大森拓哉(多摩大学)

CA4-1 9:30～9:50

異質評価者の特性を考慮した項目反応モデル

○宇都 雅輝(電気通信大学), 植野 真臣(電気通信大学)

CA4-2 9:50～10:10

項目反応理論を用いた消費者別価格反応度の推定

○石橋 敬介(流通経済研究所／筑波大学大学院 ビジネス科学研究科), 尾碕 幸謙(筑波大学大学院 ビジネス科学研究科)

CA4-3 10:10～10:30

教育調査における多次元項目反応モデルと母集団モデルの有効性について

PISA(OECD 生徒の学習到達度調査)の場合

篠原 真子(国立教育政策研究所), ○袈岩 晶(国立教育政策研究所)

CA4-4 10:30～10:50

当て推量の存在が受験者特性値の推定に与える影響

2 パラメタ・ロジスティックモデルや 1 パラメタ・ロジスティックモデルを用いた推定の頑健性

○登藤 直弥(大学改革支援・学位授与機構)

CA4-5 10:50～11:10

反応時間を利用した一対比較データの分析モデル

○分寺 杏介(東京大学大学院 教育学研究科)

CA4-6 11:10～11:30

非対称損失を用いた多値 IRT モデルによる医療・教育データの分析

○森 一将(文教大学経営学部)

8 月 31 日(木) ラウンドテーブル(120 分)【第 5 会場 4104 講義室】

データサイエンスの今日的動向

オーガナイザー, 討論者: 木下富雄(京都大学名誉教授)

オーガナイザー, 司会者: 丸山久美子(聖学院大学)

討論者: 水島友昭(インターネット総合研究所), 天野徹(明星大学 人文学部),

林篤裕(名古屋工業大学)

SB3-18-1

IoT とビッグデータのデータの取り扱いについて

○水嶋 友昭((株)インターネット総合研究所)

SB3-18-2

大規模災害発生時の被災者誘導を実現するための情報環境・データサイエンスについて

ステークホルダーの win-win になるビジネスモデルと、適切な誘導を実現する情報の組み合わせ・システムのマッシュアップを実現するデータサイエンスのあり方とは

○天野 徹(明星大学 人文学部 人間社会学科)

SB3-18-3

データサイエンスに求められるもの

○林 篤裕(名古屋工業大学 大学院工学研究科 社会工学専攻)

12:30-13:30

8 月 31 日(木) ポスター発表(60 分) 【看護学部棟 4 階 13408, 13409 演習室】

座長: 松本 渉(関西大学)

CA11-1 12:30～13:30

有権者の経済政策に対する評価の精緻化

○大村 華子(関西学院大学総合政策学部)

CA11-2 12:30～13:30

ロールプレイングゲームを用いた講義の効果

2017 年度の国際政治学への導入事例

○福井 英次郎(慶應義塾大学 ジャンモネ EU 研究センター)

CA11-3 12:30～13:30

非耐久消費財テレビ広告の統合効果と年次的推移

北條 大樹(専修大学大学院文学研究科), 田中 利夫(専修大学大学院文学研究科),
杣取 恵太(専修大学大学院文学研究科), ○坂本 次郎(専修大学大学院文学研究科)

CA11-4 12:30～13:30

地方移住にかかわる地域住民の意向を探る

三重県尾鷲市市民を対象とした調査結果より

○朴 堯星(統計数理研究所)

CA11-5 12:30～13:30

他感情語との類似度および SD 法的印象評価による感情語の予測分類

○京屋 郁子(立命館大学 総合心理学部), 尾田 政臣(立命館大学 文学部)

CA11-6 12:30～13:30

「年金カット法案」はどう報道されたか

ー全国紙に対する計量テキスト分析によるアプローチー

○中嶋 邦夫(ニッセイ基礎研究所)

8 月 31 日(木) ポスター発表(60 分) 【看護学部棟 4 階 13413, 13414 演習室】

座長: 森 裕一(岡山理科大学)

CA11-7 12:30～13:30

単純加算課題におよぼす色彩の効果

○中島 幹就(電気通信大学大学院情報理工学研究科), 久野 雅樹(電気通信大学大
学院情報理工学研究科)

CA11-8 12:30～13:30

ゲノム編集技術とその応用に関する消費者意識の計量分析

専門家と一般市民の比較から

○加藤 直子(統計数理研究所), 前田 忠彦(統計数理研究所), 立川 雅司(名古屋大
学)

CA11-9 12:30～13:30

R における Case 2 Best-Worst Scaling の実施環境の整備

○合崎 英男(北海道大学 大学院農学研究院)

CA11-10 12:30～13:30

食習慣の可視化と食習慣改善行動の関連

ー飲食に関する記録・目標設定と摂取カロリー制限行動ー

○渡辺 直紀((株)明治安田生活福祉研究所)

CA11-11 12:30～13:30

児童自立支援施設(教護院)入所児童の変化

○萩生田 伸子(埼玉大学教育学部), 大原 天青(国立武蔵野学院)

CA11-12 12:30～13:30

高齢者住宅居住者の生活満足度と居住継続意向

大都市のサービス付き高齢者向け住宅を事例として

○馬場 康德(立正大学大学院社会福祉研究科), 馬場 さやか(東京福祉大学), 渡辺
俊一(東京情報大学)

13:40-15:10

8 月 31 日(木) 大会シンポジウム(90 分) 【静岡県立大学看護学部棟 4 階 13411 講義室】

「行動計量学会と林知己夫 ― 生誕百年を記念して ―」

講演者: 鮎戸 弘(東京大学名誉教授), 馬場康維(統計数理研究所),
松原 望(東京大学名誉教授)

司会者: 村上征勝(勉強文化情報研究所)

討論者: 吉野諒三(統計数理研究所), その他フロアからの討論者予定

15:20-16:20

8 月 31 日(木) 柳井レクチャー(60 分) 【静岡県立大学看護学部棟 4 階 13411 講義室】

水野欽司と行動計量学 ― 林知己夫との絆を中心にして ―

講演者: 岩坪 秀一(大学入試センター名誉教授)

司会者: 岩崎 学(成蹊大学理工学部・横浜市立大学データサイエンス推進センター)

16:30-17:30

8 月 31 日(木) 総会(60 分) 【静岡県立大学看護学部棟 4 階 13411 講義室】

18:30-20:30

8 月 31 日(木) 懇親会(120 分) 【ホテルアソシア(静岡駅前)】

9 月 1 日(金)

9:30-11:30

9 月 1 日(金) 特別セッション(120 分)【第 1 会場 4111 講義室】
各種調査法における調査周辺情報と回答行動の分析

オーガナイザー, 司会者: 前田 忠彦(情報・システム研究機構 統計数理研究所)

SB4-19-1

CAPI 調査における調査不能の寄与要因の分析

○大久保 将貴(大阪大学大学院人間科学研究科)

SB4-19-2

調査不能バイアスの調整に用いる補助変数の選択について

○伏木 忠義(新潟大学教育学部)

SB4-19-3

CAPI 調査における回答所要時間の分析

○前田 忠彦(情報・システム研究機構 統計数理研究所), 稲垣 佑典(統計数理研究所)

SB4-19-4

二種類の電話調査の発信記録を比較すると何が分かるか

—固定電話調査と携帯電話調査のパラデータに注目して—

○松本 渉(関西大学総合情報学部), 前田 忠彦(情報・システム研究機構 統計数理研究所)

SB4-19-5

Web 調査における Satisfice 回答行動の分析

○稲垣 佑典(統計数理研究所), ○加藤 直子(統計数理研究所), 前田 忠彦(統計数理研究所)

9 月 1 日(金) 特別セッション(120 分)【第 2 会場 4109 講義室】
非対称データの分析: 方法と応用

オーガナイザー: 今泉 忠(多摩大学経営情報学部)

SB4-20-1

ブランドスイッチングにおける consumer の個人差

○岡太 彬訓(立教大学), 鶴見 裕之(横浜国立大学)

SB4-20-2

多次元展開法を用いた非対称な人間関係の可視化

○清水 裕士(関西学院大学社会学部), 小杉 考司(山口大学教育学部)

SB4-20-3

周期性のある非対称性データに対する Dominance 点モデルについて

○土田 潤(同志社大学大学院文化情報学研究科), 宿久 洋(同志社大学文化情報学部)

SB4-20-4

時点的変化を捉えるための非対称 MDS の提案

○今泉 忠(多摩大学経営情報学部)

SB4-20-5

Dynamical scenarios of changes in asymmetric relationships on a Hilbert space

○千野 直仁(愛知学院大学心身科学部)

9 月 1 日(金) 特別セッション(120 分)【第 3 会場 4212 講義室】 言語運用力と数理分析力を測定するための試験の開発

オーガナイザー, 司会者: 椎名久美子((独)大学入試センター 研究開発部)

SB4-21-1

「言語運用力」および「数理分析力」試験の作題ガイドラインの開発

○椎名 久美子((独)大学入試センター 研究開発部), 伊藤 圭((独)大学入試センター 研究開発部), 桜井 裕仁((独)大学入試センター 研究開発部), 荒井 清佳((独)大学入試センター 研究開発部), 宮埜 寿夫((独)大学入試センター 研究開発部)

SB4-21-2

言語運用力試験とその作題ガイドラインの開発

○伊藤 圭(大学入試センター研究開発部), 荒井 清佳(大学入試センター研究開発部), 椎名 久美子(大学入試センター研究開発部), 桜井 裕仁(大学入試センター研究開発部), 宮埜 寿夫(大学入試センター研究開発部)

SB4-21-3

数理分析力試験とその作題ガイドラインの開発

○桜井 裕仁(大学入試センター研究開発部), 椎名 久美子(大学入試センター研究開発部), 荒井 清佳(大学入試センター研究開発部), 伊藤 圭(大学入試センター研究開発部), 宮埜 寿夫(大学入試センター研究開発部)

SB4-21-4

作題ガイドラインに基づく「数理分析力」問題作成の試み

○浅岡 凜(総合研究大学院大学学融合推進センター)

9月1日(金) 一般セッション(80分) 【第4会場 4213 講義室】
マーケティング1

座長: 星野崇宏(慶應義塾大学)

CA5-1 9:30～9:50

ケータイ・ライフスタイルの研究(1)

——スマホ時代の動画利用の実態、特に有料配信利用者の特徴——

飽戸 弘(東京大学(名誉教授)), 栗原 一浩((株)NTTドコモ モバイル社会研究所), ○
松本 健太郎((株)NTTドコモ モバイル社会研究所)

CA5-2 9:50～10:10

ケータイ・ライフスタイルの研究(2)

——スマホ時代の消費者行動、オンラインショッピングの動向——

飽戸 弘(東京大学(名誉教授)), 栗原 一浩((株)NTTドコモ モバイル社会研究所), ○
栗原 俊介((株)NTTドコモ モバイル社会研究所)

CA5-3 10:10～10:30

ケータイ・ライフスタイルの研究(3)

——シニアのスマホ所有／非所有に影響する要因——

飽戸 弘(東京大学(名誉教授)), 栗原 一浩(NTTドコモ モバイル社会研究所), ○吉良
文夫(NTTドコモ モバイル社会研究所)

CA5-4 10:30～10:50

ケータイ・ライフスタイルの研究(4)

——スマホを所有するシニアのスマホへの「関与」に影響する要因——

飽戸 弘(東京大学(名誉教授)), 栗原 一浩(NTTドコモモバイル社会研究所), ○水野
一成((株)NTTドコモ モバイル社会研究所)

12:30-14:30

9月1日(金) 一般セッション(120分) 【第1会場 4111 講義室】
調査データの収集・分析

座長: 中井美樹(立命館大学)

CA6-1 12:30～12:50

地方自治体による継続住民意識調査の回収率の動向

○山田 茂(国土館大学)

CA6-2 12:50～13:10

衆議院補欠選挙における有権者名簿抽出した対象者へのオンライン選挙情勢調査の試
み

○齋藤 恭之(朝日新聞社 世論調査部), 土屋 隆裕(横浜市立大学)

CA6-3 13:10～13:30

集計データの統計解析

エコロジカル回帰の適用

○岩崎 学(成蹊大学理工学部情報科学科), 関口 則子(サントリー), 高野 海斗(成蹊大学大学院)

CA6-4 13:30～13:50

中国北京と杭州における環境意識の実態と特徴の比較分析

○陳 艶艶(同志社大学 文化情報学研究科), 鄭 躍軍(同志社大学 文化情報学部)

CA6-5 13:50～14:10

グローバルコンピテンシーの育成に有効な教育施策

傾向スコアによる日本の大学院の分析

○宇都原 泰洋(電気通信大学大学院情報理工学研究科), 宇都 雅輝(電気通信大学大学院情報理工学研究科), 石原 朝菜(一般財団法人日本生涯学習総合研究所), 吉川 厚(東京工業大学情報理工学院), 植野 真臣(電気通信大学大学院情報理工学研究科)

CA6-6 14:10～14:30

グローバル化のなかのローカル文化消費

「21 世紀の消費とくらしに関する調査」の結果をもとに

○廣瀬 毅士(駒澤大学 グローバル・メディア・スタディーズ・ラボラトリ)

9 月 1 日(金) 一般セッション(120 分) 【第 2 会場 4109 講義室】

統計手法開発・評価

座長: 井本智明(静岡県立大学)

CA7-1 12:30～12:50

認知診断モデルにおける項目パラメタの標準誤差 – サンプルサイズとアトリビュート数に焦点を当てた検討 –

○山口 一大(東京大学大学院教育学研究科), 岡田 謙介(専修大学人間科学部)

CA7-2 12:50～13:10

回転を含む主成分分析におけるブーツストラップ法の使用について

○村上 隆(中京大学現代社会学部)

CA7-3 13:10～13:30

製品カテゴリーと複数ブランド購買の段階型同時分析動的モデルの拡張と識別性について

○宮崎 慧(関西大学商学部)

CA7-4 13:30～13:50

Random time effects in Growth Curve Modeling

Type-1 Error Inflation and A Possible Solution with Mixed-effects Model

○宇佐美 慧(東京大学高大接続研究開発センター), 村山 航(University of Reading)

CA7-5 13:50～14:10

回答者評価の属性差・個人差の同時視覚化法の提案

○高岸 茉莉子(同志社大学文化情報学研究科), 宿久 洋(同志社大学文化情報学部)

CA7-6 14:10～14:30

職業イメージの差異のグラフ表現法の提案

○大森 拓哉(多摩大学経営情報学部), 森 一将(文教大学経営学部)

**9月1日(金) 一般セッション(100分)【第3会場 4212 講義室】
心理**

座長: 藤井誠二(新潟県立大学)

CA8-1 12:30～12:50

国際比較の視座からする Schwartz の「価値観モデル」の実証的な検討

「世界価値観調査」のデータ分析

○真鍋 一史(青山学院大学 地球社会共生学部)

CA8-2 12:50～13:10

共通数量化による分析例

心理学科入学者の分析

○岡本 安晴(日本女子大学人間社会学部心理学科)

CA8-3 13:10～13:30

非対称な選択肢への回答

選択肢分割効果か中間選択か

○増田 真也(慶應義塾大学看護医療学部), 川畑 秀明(慶應義塾大学文学部), 坂上 貴之(慶應義塾大学文学部)

CA8-4 13:30～13:50

新しい社会人基礎力モデルの探索と構築 1

ー山口県企業調査に基づく検討ー

○芳賀 麻誉美(大阪経済大学 経営学部), 天内 和人(徳山工業高等専門学校)

CA8-5 13:50～14:10

医学部学生的一般性格 ～BigFive 尺度を用い, 11 年間を見て～

○安田 晃(島根大学医学部医療情報学講座)

12:30-13:30

9月1日(金) 一般セッション(60分) 【第4会場 4213 講義室】
マーケティング2

座長: 中山厚穂(首都大学東京)

CA9-1 12:30~12:50

supervisedLDA によるコンテンツ傾向抽出

○篠原 正裕((株)インテージ 開発本部 データサイエンス部)

CA9-2 12:50~13:10

準ベイズ法による補助情報を利用した欠測のある生存時間解析モデルの提案:購買間隔モデルへの応用

○猪狩 良介(慶應義塾大学 経済学研究科), 星野 崇宏(慶應義塾大学 経済学部/経済学研究科)

CA9-3 13:10~13:30

トピック保存型の Dynamic Topic Model による位置情報データのクラスタリング

○松村 優哉(慶應義塾大学大学院経済学研究科), 高畑 圭佑(慶應義塾大学大学院経済学研究科), 星野 崇宏(慶應義塾大学大学院経済学研究科)

13:35-14:35

9月1日(金) 一般セッション(60分) 【第4会場 4213 講義室】
工学

座長: 下川敏雄(和歌山県立医科大学)

CA10-1 13:35~13:55

災害時における2次医療圏でみた医療提供能力の比較

○大場 春佳(静岡理工科大学情報学部), 水野 信也(静岡理工科大学), 藤澤 由和(宮城大学), 笥 淳夫(工学院大学)

CA10-2 13:55~14:15

感性に基づく確率的ユーザーモデルの構築

○櫻井 瑛一(産業技術総合研究所), 本村 陽一(産業技術総合研究所), 安松 健(株式会社オーグス総研), 坂本 和夫(国立大学法人 広島大学), 道田 奈々江(マツダ株式会社)

CA10-3 14:15~14:35

データ数が少ない場合の m-DSAM による ERP の計量

○船田 眞里子(白鷗大学経営学部), 船田 忠

日本行動計量学会第 45 回大会

主催: 日本行動計量学会第 45 回大会実行委員会

於: 静岡県立大学

開催日: 2017 年 8 月 29 日～9 月 1 日

○ 実行委員会

大会実行委員会委員長

西川 浩昭(静岡県立大学)

実行委員

上野 雄史(静岡県立大学)(副委員長)

井本 智明(静岡県立大学)

小林 みどり(静岡県立大学)

斉藤 和巳(静岡県立大学)

玉利 祐樹(静岡県立大学)

松本 渉(関西大学)

尾碕 幸謙(筑波大学)

大森 拓哉(多摩大学)

下川 敏雄(和歌山県立医科大学)

菅野 剛(日本大学)

角田 弘子(日本ウェルネススポーツ大学)

中井 美樹(立命館大学)

中村 永友(札幌学院大学)

中山 厚穂(首都大学東京)

藤井 誠二(新潟県立大学)

星野 崇宏(慶應義塾大学)

褒岩 晶(国立教育政策研究所)

森 裕一(岡山理科大学)

横山 暁(青山学院大学)

吉田 清隆(神戸親和女子大学)

○ 協賛(2017 年 6 月 23 日現在)

株式会社 朝倉書店

株式会社 NTT データ数理システム

NMatrix Service and Products

株式会社 北大路書房

株式会社 クロス・マーケティング

SAS Institute Japan 株式会社

一般社団法人 社会調査協会

シュプリンガー・ジャパン株式会社

株式会社 誠信書房

株式会社 ナカニシヤ出版

勉誠出版株式会社

楽天リサーチ株式会社

編集: 日本行動計量学会第 45 回大会実行委員会

発行: 日本行動計量学会